

みんなの未来 幸せなまちづくり

地元でやりたい仕事ができる

子供を地元の大学に通わせられる

共働きでも安心して子育てができる

安全な街だからここでずっと暮らしたい

十分な医療体制

夢のある企業で一生働ける

バッテリーバレー構想って？

バッテリーバレー構想に関わる様々な取り組みを経て、「地域イノベーション」を起こし、次世代を担う若者や子供たちへ将来の夢と希望を持てる地域を創造します。

私達も応援しています。



前法務大臣 参議院議員
森まさこ議員

福島の子供たちの未来のために！

福島県では以前から若者の流出が顕著になり、特に女性の流出も問題となっています。女性や若者が就職できる場所、家庭を持ち安心して子育てができる環境や質の高い教育を受けられる場所を作る意味でもいわきバッテリーバレー構想が大きな足がかりとなります。日本では、菅総理が2050カーボンニュートラルを宣言。そして世界では脱炭素社会をリードするビジネスの主導権争いが激化しており、コスト面や蓄電の課題もある中で同構想における自動車バッテリーのリユース等のアイデアが実現すれば海外から ESG 投資も呼び込めるという潮流の中、復興の歩みの中で生まれた「いわきバッテリーバレー構想」が今まさに「時代」を迎えています。原発事故から歯を食いしばって復興してきた我々のふるさとに生まれてくる子供たちが、いわき市に誇りを持ち生涯、安心・安全・豊かに暮らしていける地域となるために、是非この構想を成功させてまいりましょう。

夢のあるまちづくりを目指して！

水素と酸素から電気をつくり出し電池・バッテリーによりモーターを動かす燃料電池自動車、いわき市内に55台、路線バス1台が走っています。東日本大震災からの復興を感じる「水素社会」の到来が見えてきたといっても過言ではありません。「この地で生まれ育ち暮らせる街づくり」を目指してきた私の思いに通じるものの一つに「いわきバッテリーバレー構想」があります。いわき市には、小惑星探査機「はやぶさ」のバッテリーを手掛けた企業、電池の性能評価をする企業、電極材料を作る企業などバッテリー関連の企業が多く立地しています。今後バッテリー関連の産業がいわき市に集積され、新しく働く人が住むようになれば東日本大震災からの復興が進むものと思います。これからも「いわきバッテリーバレー推進機構」の活躍を大いに期待しております。



衆議院議員
吉野正芳議員

私達は皆さまと共に福島から世界へ産業革命を起こしたい

2012年、東日本大震災からの復興を目的として、福島県を日本のエネルギー産業の重要拠点とすべく“バッテリーバレー構想”がスタートしました。現在、私達は次世代の主要エネルギーとして注目される水素を活用した地域インフラを整備することを新たな目的として活動を推進しています。100%再生可能エネルギーによる産業地帯をつくり企業を誘致して、雇用の創出と地域活性化を目指します。この活動により少子高齢化問題の解消等を含め、地方の人口流出を防ぎ、多様な人材が集まり新たな産業が創出されることで、未来を担う子供たちに誇れる地域づくりができるものと確信しております。福島県にはバッテリー部品を作る産業の基礎があります。小名浜港は日本と世界を結ぶ重要な役割を担う国際港であり、水素を活用するこの構想には必要不可欠なものとなっております。このようにイノベーションを起こせる可能性を持った地域がこの福島県であり、浜通りです。福島県はバッテリーや新エネルギー産業を通し、世界に誇ることができる地球環境保護のモデル地域になり得ます。人と世界の生き物がきれいな地球環境の中で共存していくため、東日本大震災そして原子力災害を経験した福島県が貢献していくことは大変意義深いことであると考えております。私達は国・県と地元を支える民間企業の皆さまと共に、新エネルギー社会実現構想の実現に向け歩み続けて参ります。



一般社団法人
いわきバッテリーバレー推進機構
代表理事 庄司 秀樹



一般社団法人
いわきバッテリーバレー推進機構
副代表理事 猪狩 謙二

いわき市の現状とは？

詳細は裏面へ



いわきの現状を 考える!

全国平均と
比べ収入が少ない

生活に
ゆとりがない

若者の
人口流出

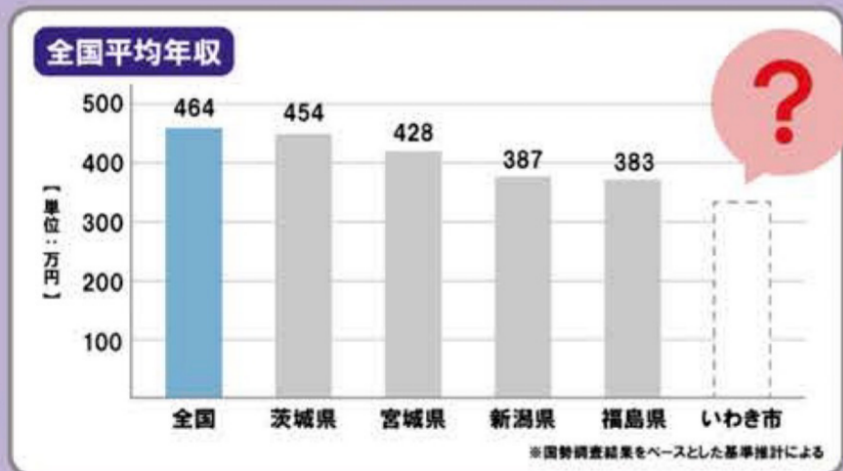
学生たちは高校卒業と
同時に都市部へ
就職・進学してしまう

医療従事者の
負担が大きい

いわき市では人口10万人
あたりの医師数が
とても少ない



Q いわき市の平均年収ご存知ですか？



全国平均と比べると
収入が少ない

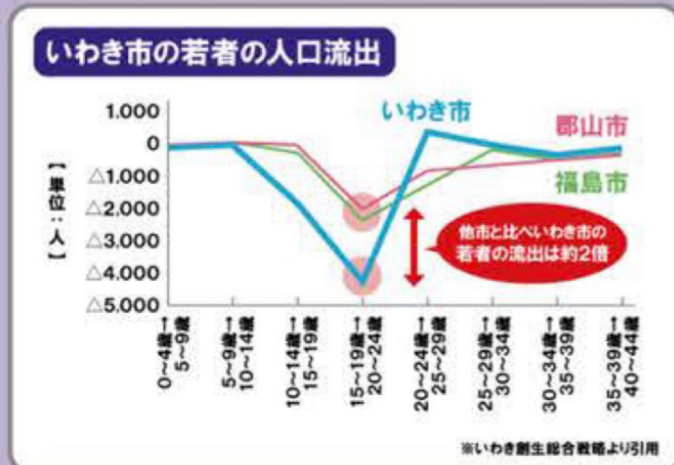
A 企業進出により雇用が生まれ、地域活性化につなげる

Q 地方の医師不足を感じませんか？



A 魅力あるまちづくりを行い、医療従事者をはじめ
多くの人が定住することで、地域医療の充実をはかる

Q 若者の数が少なく感じませんか？



若者の
人口流出

福島県内の大学および学部

福島県の大学
● 理系大学
● 文系大学
● 医療系大学

いわき市には理系の大学がなく、
多くの学生が都市部の大学へ進学。

若者がいわき市から
出ていき戻ってこない。

30年後のいわき市の人口予想

このまま人口流出が続けば...

1人の後期高齢者を支える生産年齢者数

年	1人の後期高齢者を支える生産年齢者数
2015年	4人1人
2035年	2人1人
2055年	1人1人

2055年には1人の高齢者を
1人の現役世代が支えることに。

※社人研推定により算定(出生1.56)

A 1. 最先端企業の誘致 → 地元雇用が生まれる 2. 教育機関の充実 → 若者の地元定着、魅力ある人財の育成が必要

地域のすべてのみなさまと共に
“誰かのために”があふれる社会へ変えていきましょう!